

多面的な介入は、障害のある成人のコミュニティ参加への影響が限定的であることを示している



障害のある成人のコミュニティ参加を支援するための政策をより効果的に伝え、将来の政策を導くためには、継続的な研究が必要である。

このレビューの目的は何か？

このキャンベルの系統的レビューとメタ分析は、障害のある成人のコミュニティ参加の成果に対する多面的な介入の影響を調査し、介入の効果的な構成要素を見つけることを目的としている。このレビューでは、5カ国で行われた多面的介入の15件の報告から得られた知見をまとめている。

多面的介入は、障害者のコミュニティ参加の成果を向上させるために、ソーシャル・スキル・トレーニングや職場体験などの異なる介入要素を組み合わせたものである。エビデンスは、このアプローチを限定的に支持することを示している。より多くのより良いエビデンスが必要である。

このレビューの目的は何か？

多面的介入とは、異なる領域における2つ以上の個人的または環境的特性を対象とした介入である。例えば、多くの要因が、障害者の地域社会における統合的で競争力のある雇用の結果に影響を与える。これらの要因の中には、個人（例えば、職場経験、社会的スキル、支援ニーズのレベル、教育／訓練）、雇用者または職場（例えば、障害者意識、便宜施設の提供、アクセシビリティ）、および地域社会（例えば、交通機関へのアクセス、職場への近接性）に関連した介入のポイントがある。

このレビューでは、障害のある成人のコミュニティ参加に関連する成果を測定する多面的な介入を検討している。

このレビューにはどのような研究が含まれているか？

対象となった研究は、地域社会への直接的なアクセス（例えば、競争力のある雇用、成人の学習、住居）を提供するか、または地域社会参加の一側面（例えば、自己決定、生活の質、社会的ネットワーク）となる結果をもたらす2つ以上の参加者特性（例えば、スキルの向上、行動／態度の変化）と環境特性（例えば、参加者と人、場所、または物との相互作用）の両方またはその一方に対処するように設計された介入を少なくとも2つ採用している。

多面的介入を用いた15件の研究が本レビューに含まれた。このうち、9件がランダム化されたものであり、6件が準実験的研究であった。研究参加者は、中等教育機関を退学した18歳以上の障害のある成人であった。参加者は、知的障害、精神疾患、外傷性脳損傷、加齢に関連した障害（例：認知症、アルツハイマー病、日常生活動作の低下）、または2つ以上の分類の組み合わせであることが確認された。しかし、オッズ比のメタ解析は、同等の尺度を有する11件の研究（6つの介入に関する）に限定されている。



このレビューはどれぐらい最新のものか？

レビュー執筆者が2016年末までの研究を検索した。

キャンベル共同研究とは何か？

キャンベル共同計画とは、系統的レビューを公表する、国際的、任意的、非営利的な研究ネットワークである。本組織は、社会科学や行動科学の領域における取り組みのエビデンスを要約し、その質を評価している。本組織の目的は、人々のより良い選択とより良い政策決定を支援することである。

この要約について

この要約は、Gross, JM, Monroe- Gulick, A, Nye, C, Davidson-Gibbs, D, Dedrick, D.らが、Campbell Systematic Reviews. “Multifaceted interventions for supporting community participation among adults with disabilities”に基づき作成したものである。

この要約の作成のためのアメリカ研究機関からの財政支援に感謝の意を表す。

このレビューの主な知見は何か？

多面的介入の個別研究は、障害のある成人のコミュニティ参加の増加に焦点を当てている。これらの研究では、いくつかの成果(雇用、生活の質、成人の学習)にプラスの効果があるというエビデンスが示されている。しかし、その他の成果(日常生活活動、メンタルヘルス、自律性、自立生活、社会的スキル、地域活動、住宅)には有意な効果は見られない。

多面的介入を支持するエビデンスは、(1)研究のデザインの質の欠如、(2)各多面的介入と関連するアウトカムを対象とした研究の数の少なさによって妨げられている。

このレビューの結果は何を意味するのか？

研究への示唆

単面的な介入よりも多面的な介入の有効性を限定的に支持していることから、障害のある成人のコミュニティへの参加に関連して、広くかつ具体的に有効性を判断するためのより実質的な研究の必要性が示唆されている。今後の研究では、同じような障害を持つ成人のターゲットグループのより具体的な成果に焦点を絞るべきであり、それによって多面的介入の潜在的な有効性についてのより大きな洞察が得られる可能性がある。

多面的介入の対象となることが多い障害者集団は、実行機能に対してより大きな支援を必要とする傾向がある。さらに、これらの集団に対する多面的介入は、介入の一面の1つとして認知コーチングを含む傾向がある。したがって、これらの集団を対象とした多面的介入に関するより多くの研究は、関心のある特定のアウトカム(例えば、競争力のある雇用)にわたる多面的介入の有効性についてのより大きな洞察を提供する可能性がある。

政策への示唆

本系統的レビュー含まれた研究は、政策に直接対処するものではなかった。

しかし、障害者の雇用とコミュニティに関することは重要な政策分野である。このように、成人障害者のコミュニティ参加を支援することを将来の政策指針とするためにはより効果的に報告し、継続的に研究することが必要である。政策的な意味合いを形成する前に、質の高い研究からのより多くの研究エビデンスが必要である。



AMERICAN INSTITUTES FOR RESEARCH®